

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	ミクス・テオドラキス作曲 ヤニス・リッツォス「エピタフィオス」：言語芸術・音楽芸術と政治との関係について
Author(s)	土居本, 稔
Citation	プロピレア , 22 : 55 - 73
Issue Date	2016-08-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00041556">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00041556</a>
Right	Copyright (c) 2016 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



ミキス・テオドラキス作曲  
ヤニス・リッツォス「エピタフィオス」  
—言語芸術・音楽芸術と政治との関係について—

土居本 稔

はじめに

ヤニス・リッツォス（1909－1990）は、二人のノーベル賞詩人、ヨルゴス・セフェリス（1900－1971）とオディッセアス・エリティス（1911－1996）に並ぶ現代ギリシアの大詩人である。1958年に作曲家ミキス・テオドラキス（1925－）がリッツォス詩「エピタフィオス」に作曲し、大人気を博してテオドラキスが名声を得るデビュー作となった。リッツォスもテオドラキスも左翼の芸術家として当時の政治状況と切り離せない活動を行った。

「エピタフィオス」の作曲については、発表当時、文学と音楽、政治活動が複雑に絡み合っていた。左翼のテオドラキスと反左翼の作曲家マノス・ハジダキス（1925－1994、映画音楽「日曜はダメよ」の作曲で有名）の二人が、各々リリースしたテオドラキス作曲「エピタフィオス」のレコードで選んだ歌手グリゴリス・ビシコーツィスとナナ・ムスクーリ、その歌唱法や演奏法までが論議の対象となった。

さらに、この二人の作曲家のどちらを支持するかが、ギリシア国民各層の政治的主張を代弁することになった。しかし、音楽は政治的主張とは切り離すべきだという声も当然あり、そもそもハジダキスがテオドラキスの作品をなぜ自らレコード化したのかという疑問も残る。その経緯を文学、音楽そして政治的背景の面から探ることがこの研究ノートの目的である。そして、これらの背景から離れても、何より詩そのもの、音楽そのものの魅力が筆者自身を現在でもひき付けてやまないことが研究を始めた理由である。

なお、「エピタフィオス」の日本語全訳は、筆者の知る限りまだ出版されていない。しかし、近現代ギリシア文学研究家の茂木政敏氏のご厚意により、”*Journal of the Hellenic Diaspora*”1986 spring-summer号に掲載された米国ケ

ント州立大学の古典学の准教授である Rick Newton の英訳を入手することができた。この英訳および Rick Newton の解説文から多くの示唆を受けた。

## 1. リッツォス詩「エピタフィオス」について

1936年4月にメタクサス将軍が副首相から首相に昇格した後、議会を休会させて、労働界の指導者たちを逮捕し、最も闘争的であった労働組合を解散し、ストライキを非合法と宣言した。共産主義者たちは一連のストライキを組織して反発したが、その中には、流血の事態に至り30人ほどの死者を出した5月9日のテッサロニキの予備的ゼネストがあった。この際、警官、軍隊による弾圧で路上に倒れて死亡した息子を嘆き悲しむ母親の翌日の新聞報道写真を見てリッツォスの書いた詩が「エピタフィオス」である。

ギリシア保守層はこの詩を危険で不敬なものと見做して、出版後すぐにメタクサス独裁政権が焚書リストに含めて販売禁止とした。しかし、1963年5月のランブラキス国会議員暗殺事件に対して抗議のため立ち上がったギリシア左翼学生たちがスローガンとして口ずさんだのは、テオドラキスの作曲した「エピタフィオス」であった。その後、テオドラキスの作曲した曲もすべて軍事独裁政権が崩壊する1974年まで、歌うことはおろか聴くこともレコードの所持も禁止された。

Rick Newton によれば、「エピタフィオス」は当初、*Μοιρολόγι*（哀歌、挽歌、葬送歌）と名付けられた44行の詩であったが、その後リッツォスはこの詩を *Επιτάφιος*（聖墓行進）と改名し加筆して14連、224行とした。1956年にさらに6連（第10連～第15連）を追加して、最終的に各連に8節（第19、20連は9節）の脚韻を踏んだ二行連句からなる合計20連、324行の詩とした。1936年に書き始めてから20年が経過していた。詩の主題として息子の死を嘆く母親の写真から、人間の深い悲しみ、復活、そして希望への普遍的なイメージを描いている。

リッツォスは左翼詩人といわれるが、池澤夏樹によれば「...初期の作品をのぞいて彼の詩には左翼的な匂いはほとんどない。ギリシアのなにげない情景を実に正確な美しい筆致で描きながらそれを見事に転調させて非常に精神的なものの表象とするその手法にはシュルレアリスムに近い美はあっても社会主義レアリスムの色はまったく欠けている。」と評価している。

中井久夫も「リッツォスは左翼の詩人であり、実際に抵抗運動に参加した人であるが、池澤夏樹氏のいうようにその枠を大きくはみ出した存在である。」と述べている。

それでは、左翼の作曲家であるミクス・テオドラキスはこの点どうなのだろうか。これは今後の研究課題でもある。

## 2. テオドラキス作曲の経緯とレコード化

テオドラキスは14歳の時から作曲を始めたが、1950年にアテネ・コンセルバトール卒業の後、1954年から奨学金を得てパリ・コンセルバトールで作曲を学んだ。シンフォニー、ピアノソナタ曲などクラシック音楽の作品を当初発表して数々の賞を受けていた。

テオドラキスが青年時代に最も賞賛した詩人がリッツォスであり、一方リッツォスもテオドラキスの初期の作品に早くから関心を示していた。1958年にリッツォスがパリにいたテオドラキスに「エピタフィオス」を送った時に作曲してもらえとは思っていなかった。

しかし、送られた「エピタフィオス」の主題と構成から、当時テオドラキス自身が追求していた音楽活動のギリシア回帰の表現方法としてこの詩を取り上げて、そのうちの8連にのちにギリシア伝統音楽復興の転換点と目される作曲を一日で終えた。全20連の内の8連をどのように選択したかは後述する。一連丸ごとではなく、原詩の複数の連と節から選択して、テオドラキスの「エピタフィオス」8曲が完成した。

クレフティカ（トルコ支配下ゲリラ隊員の歌）、イピロス地方の民謡、マニ族の葬送歌、島の踊りや民謡、クレタ島のリジティカ音楽の伝統にもとづいて、テオドラキスの作曲したメロディーに使用した音楽のリズムはギリシア民族舞踊のハサピコス(4/8拍子)やゼイベキコス(9/8拍子)などである。これらの曲に合わせてハサピコスやゼイベキコスをすぐにギリシア人なら踊り出すだろう。

ハサピコスは、ビザンティン帝国時代にコンスタンチノーブルの肉屋の職人集団の踊りであった。船員に非常に人気があったので、ナフティカ（船員の踊り）とも呼ばれ港町で盛んに踊られた。当初は2人の男性が肩を組んで決められたステップで踊っていたが、現代では女性も加わって多人数で踊られる。遅いハサピコスと速いハサピコスがあり、その中間がハサポセルビコス（セルビアの音楽の影響を受けた）となる。

ニコス・カザンザキスの小説「その男ゾルバ」でゾルバが踊るダンスが、ハサピコスを簡素化したシルタキダンスである。この作品は映画化されて世界中でこの踊りが有名になった。

一方、ゼイベキコスは、スミルナ近郊のエーゲ海沿岸に近い山間部のゼイベ

ック族の踊りが発祥で、現代ではひとりで踊り、高度に個人主義的で、そして即興的なステップと旋回運動を通して、深い情感を表現する。ひざを曲げ、手を両側へ伸ばし、リズムを指で打ち鳴らしながら、突然旋回してしゃがみ込み激しく飛び跳ねて、手は足をパチパチ打つ。この踊りはギリシア民族舞踊を他の何よりも具現化しており、時には驚の踊りとも呼ばれる。

テオドラキスは、弱強五歩格（15 音節）から生まれた 9/8 拍子のゼイベキコスのリズムに一致するように作曲した経緯について語っている。当初「エピタフィオス」の二行連句に合わせてメロディの拍子を 2/8+2/8+2/8+2/8 としたが、最後の拍子が短すぎるのでさらに 2/8 を加えたが逆に長すぎるように感じた。結局、2/8+2/8+2/8+3/8 とすれば丁度よいことが分かったが、まさにこれは民族舞踊のゼイベキコスの 9/8 拍子と同じになった、と述べている。

先述したように、ハジダキスは「エピタフィオス」のレコード化に際しナナムスクーリを起用して進め、クラシック歌手としての教育を受けた彼女に歌わせた。ハジダキスとムスクーリは当時人気絶頂であり師弟関係にあった。当時はまだ無名であったテオドラキス自身が「エピタフィオス」の出来上がった楽譜をリッツォスとともにハジダキスにも送ってあった。ハジダキスのレコード会社が「エピタフィオス」のレコード化を進めて、録音の際にテオドラキスも立ち会った。ハジダキスの指揮により演奏され、民族楽器のブズーキは使わず、マンドリン、ギター、ピアノなどの伴奏であった。

これに対して、テオドラキス自身が満足せずに、タクシー運転手や漁師、波止場の港湾労働者などの一般大衆に理解してもらうために、ブズーキ演奏にマノリス・ヒオティスを、そして大衆歌手であるグリゴリス・ビシコーツィスを起用して、改めて別のレコード会社でレコーディングした。当時、トルコ起源の楽器ブズーキは上流階級からまだ完全には受け入れられておらず、ビシコーツィスも無名の歌手だった。

そして、1959 年にハジダキスとテオドラキスの二つのバージョンの「エピタフィオス」のレコードが発売された。その結果、左翼、及び左翼寄りの一般大衆・学生はテオドラキスのレコードを支持し、保守層など反左翼の人々はハジダキスのレコードを支持した。

### 3. テオドラキス作曲「エピタフィオス」の試訳

テオドラキスにより曲の付けられた 8 編の歌詞の試訳を行った。”*Journal of the Hellenic Diaspora*”1986 spring-summer 号に掲載された Rick Newton の英訳との主

な違いをギリシア語の語句と文法上の解釈が異なる場合などに注釈として付記した。歌詞は、ΜΙΚΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ, *Μελοποιημένη Ποίηση ΤΟΜΟΣ Α ΤΡΑΓΟΥΔΙΑ* ύψιλον / βιβλία 1997 から引用した。

なお、試訳の各節のあとに、リッツォスの原詩からの引用先をカッコ内（原詩の連一節の番号）に記載した。詩の題名を「エピタフィオス」とギリシア語の音読みとしたのは、この言葉にギリシア正教の典礼の意味合いがあるため日本語にしなかった。原詩の脚韻を踏んでいる個所は和訳が困難であった。また、原文にはないが訳者の主観で訳語を補うことを極力避けた。ギリシア人でも詩のギリシア語の意味を読者が様々に解釈している。

各曲の冒頭の部分の楽譜を掲載した。楽譜は、*Mikis Theodorakis, Επιτάφιος Cycle of Songs* ROMANOS PRODUCTIONS LTD.からの引用である。

## ΕΠΙΤΑΦΙΟΣ 「エピタフィオス」

### 1. ΠΟΥ ΠΕΤΑΞΕ Τ' ΑΓΟΡΙ ΜΟΥ

Γιέ μου, σπλάχνο τών σπλάχνων μου, καρδούλα τής καρδιάς μου,  
πουλάκι τής φτωχειάς αυλής, ανθέ τής ερημιάς μου,

Πού πέταξε τ' αγόρι μου ; πού πήγε ; πού μ' αφήνει ;  
Χωρίς πουλάκι τό κλουβί, χωρίς νερό η κρήνη.

Πώς κλείσαν τά ματάκια σου καί δέ θωρείς πού κλαίω  
καί δέ σαλεύεις, δέ γροικάς τά πού πικρά σου λέω ;

Πού πέταξε τ' αγόρι μου ; πού πήγε ; πού μ' αφήνει ;  
Χωρίς πουλάκι τό κλουβί, χωρίς νερό η κρήνη.

### 坊やはどこへ飛んでいったの

息子よ、わたしの内臓の中の内臓、わたしの心の内の心、(\*1)

みすぼらしい中庭の小鳥、わたしの荒れ地の中の花、

( I - 1 )

坊やはどこへ飛んでいったの？ どこへ行ってしまったの？  
わたしを置いてどこへ？ 小鳥のいない鳥籠、水のない泉。(\*2) (VIII-1)

おまえの目が閉じて、わたしが泣くのも見ずに動揺もしないで、  
わたしが悲しいというのにどうして耳を傾けてくれないのか？ (I-2)

坊やはどこへ飛んでいったの？ どこへ行ってしまったの？  
わたしを置いてどこへ？ 小鳥のいない鳥籠、水のない泉。 (VIII-1)

\*1 Newton 訳は「My son, flesh of my flesh, dear heart of my heart, 」と訳した。

\*2 Newton 訳は「The cage is without a bird, the spring without water」であるが、πουλάκιを「小鳥」と訳した。なお、veró は原詩では veráki。

[ハサピコス 4/8 拍子]

Γιε μου, σπλά - χνο των

σπλά - χνων μου,

## 2. ΧΕΙΛΙ ΜΟΥ ΜΟΣΚΟΜΥΡΙΣΤΟ

Μαλλιά σγουρά πού πάνω τους τά δάχτυλα περνούσα  
τίς νύχτες πού κοιμόσουνα καί πλάι σου ξαγρυπνούσα,

Φρύδι μου, γαϊτανόφρυδο καί κοντυλογραμμένο,  
-καμάρα πού τό βλέμμα μου κούρνιαζε αναπαμένο,

Μάτια γλαρά πού μέσα τους αντίφεγγαν τά μάκρη  
πρωϊνού ουρανού, καί πάσκιζα μήν τά θαμπώσει δάκρυ,

Χείλι μου μοσκομύριστο πού ως λάλαγες ανθίζαν  
λιθάρια καί ξερόδεντρα κι αηδόνια φτερουγίζαν.

### わたしの唇は芳香を放ち

わたしの指でその上をすくった縮れた髪の毛 (\*1)  
床に入りおまえのかたわらで目覚めていた夜、 (Ⅲ-1)

湾曲を描いた美しい文字のようなわたしの眉、  
—わたしの眼差しが丸天井に留まり疲れを癒した、 (\*2) (Ⅲ-2)

朝空の遠くに反射した光の中できらきら輝く目  
涙で曇らせないように必死になってこらえた、 (Ⅲ-3)

わたしの唇は芳香を放ち、おまえが物音を立てたときに  
小石と干乾びた樹木が花開き、夜鳴き鶯が羽ばたいた。 (\*3) (Ⅲ-4)

\*1 Newton 訳は「Curly hair, through which I'd run my fingers」と訳した。

\*2 Newton 訳は「Eyebrow, smooth as braided silk and drawn with a fine pen, / an arch where my glance would perch and rest,」であるが、Φρύδι μου の μου を訳していない。

\*3 Newton 訳は「Sweet-smelling mouth, at whose speaking / Rocks and withered trees would blossom and nightingales would flutter,」であるが、 ως λάλαγες の主語が明確になるように訳した。

[ハサピコス 4/8 拍子]

The image shows two lines of musical notation in 4/8 time. The first line starts with a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/8 time signature. It contains a whole rest followed by a quarter rest, then a quarter note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4, all under a slur. Below this line is the Greek text "Μαλ - λιά σγου -". The second line continues with a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, and a quarter note C5, all under a slur. Below this line is the Greek text "ρά που πά - νω τους τα".

### 3. ΜΕΡΑ ΜΑΓΙΟΥ

Μέρα Μαγιού μού μίσεψες, μέρα Μαγιού σέ χάνω,  
άνοιξη, γιέ, πού αγάπαγες κι ανέβαινες απάνω

Στό λιακωτό καί κοιτάζες καί δίχως νά χορταίνεις  
άρμεγες μέ τά μάτια σου τό φώς τής οικουμένης

Καί μού ιστορούσες μέ φωνή γλυκειά, ζεστή κι αντρίκια  
τόσα όσα μήτε τού γιαλού δέ φτάνουν τά χαλίκια.

Καί μούλεες, γιέ, πώς όλ' αυτά τά ωραία θάναι δικά μας,  
καί τώρα εσβήστης κι έσβησε τό φέγγος κι η φωτιά μας.

### 5 月のある日

5 月のある日おまえはわたしを置いていった、5 月のある日おまえを失う、  
春に、息子よ、おまえは階上に上がるのが大好きだった (VI-1)

バルコニーで飽きることなくおまえは見つめていた  
この世の光りをおまえの目で搾り取っていた (\*1) (VI-2)

そして、甘い熱のこもった男らしい声でわたしに物語ってくれた  
海辺の玉砂利にすら及ばないほど多くのことを。 (VI-7)

おまえはいう、息子よ、そのすべての美しさはわが家のものなのだろう、  
そして、今亡くなってしまい、わたしたちの光りと炎が消え去った。 (\*2)  
(VI-8)

---

\*1 Newton 訳は「you'd milk the light of the universe without ever getting your fill,」と訳した。

\*2 Newton 訳は「And you'd tell me, my son, that all this beauty would be ours, / and now you are dead, and dead are our glow and our flame.」である。ΜούλεεςはΜού λείειςと解釈し、θάναιはθα + είναι = θάναιと解釈した。

[ゼイベキコス 9/8 拍子]



Μέ - ρα Μα - γιού μου μί - σε - ψες,



μέ - ρα Μα - γιού σε χά - νω,

#### 4. ΒΑΣΙΛΕΥΕΣ ΑΣΤΕΡΙ ΜΟΥ

Βασίλευσε, αστέρι μου, βασίλευσε όλη η πλάση,  
κι ο ήλιος, κουβάρι ολόμαυρο, τό φέγγος του έχει μάσει.

Κόσμος περνά και μέ σκουντά, στρατός και μέ πατάει  
κ' εμέ τό μάτι ουδέ γυρνά κι ουδέ σέ παρατάει.

Τήν άχνα απ' τήν ανάσα σου νιώθω στό μάγουλό μου  
άχ, κι ένα φώς, μεγάλο φώς, στό βάθος πλέει τού δρόμου.

Τά μάτια μου σκουπίζει τα μιά φωτεινή παλάμη,  
άχ, κ' η λαλιά σου, γιόκα μου, στό σπλάχνο μου έχει δράμει.

Καί νά πού ανασηκώθηκα τό πόδι στέκει ακόμα'  
φώς ιλαρό, λεβέντη μου, μ' ανέβασε απ' τό χώμα.

Τώρα οι σημαίες σέ ντύσανε. Παιδί μου, εσύ, κοιμήσου,  
καί γώ τραβάω στ' αδέρφια σου και παίρνω τή φωνή σου.

## おまえは沈んだ、わたしの星よ

おまえは沈んだ、わたしの星よ、神の創ったものはすべて沈んだ、  
そして、太陽は真っ黒に丸まって、その輝きを噛み込んでしまった。(\*1)  
(XVII-1)

群衆がわたしを小突いて通り過ぎ、軍隊もわたしを踏みつける  
わたしの目線は少しも動かず、おまえを見失うこともない。(\*2) (XVII-2)

おまえの呼吸のかすかな吐息をほおに感じる  
ああ、ひと筋の光り、強い光りがこの道の果てまで巡ってゆく。(\*3)  
(XVII-5)

輝いた手のひらでわたしの目の涙をぬぐう、  
ああ、おまえのさえずりが、坊や、わたしの内臓にまで届いた。(\*4) (XVII-6)

そして、ほら、わたしは立ち上がった、足がまだ立っている。快活な光、  
わたしの頼もしい若者が地面からわたしを起こしてくれたから。 (XVII-7)

今おまえは旗につつまれた。わたしの子よ、眠りなさい、おまえ、  
そして、わたしはおまえの兄弟の方へ向かっておまえの声を携えてゆく。  
(XVII-8)

---

\*1 Newton 訳は「and the sun, a pitch-black ball, has taken in its glow.」と訳した。  
τό φέγγος του έχει μάσει を has taken in its glow と訳した。

\*2 Newton 訳は「and my eye does not budge and does not leave you.」と訳した。  
γυρνά を budge とした。

\*3 Newton 訳は「and, ah, a light, a great light sails at the far end of the street.」と訳した。  
πλέει を sails とした。

\*4 Newton 訳は「and, ah, your voice, my son, has rushed to my entrails.」であるが、  
λαλιά を voice と、γίόκα を son と訳した。

[ゼイベキコス 9/8 拍子]

Ba - σί - λε - ψες, α - στέ - ρι μου,

## 5. ΕΙΣΟΥΝ ΚΑΛΟΣ

Είσουν καλός κ' είσουν γλυκός, κι είχες τίς χάρες όλες,  
όλα τά χάρδια τού αγεριού, τού κήπου όλες τίς βιόλες.

Τό πόδι ελαφροπάτητο σάν τρυφερούλι ελάφι,  
πάταγε τό κατώφλι μας κ' έλαμπε σά χρυσάφι.

Πώς θά γυρίσω μοναχή στό ερμαδιακό καλύβι ;  
Έπεσε η νύχτα στήν αυγή και τό στρατί μου κρύβει.

Ωχ, δέν ακούστηκε ποτέσ και δέ μπορεί νά γίνει  
νά καίγουνται τά χείλια μου και νάμαι μπρός στήν κρήνη.

Νιότη απ' τή νιότη σου έπαιρνα κι ακόμη αγνογελούσα,  
τά γερατειά δέν τρόμαζα, τό θάνατο αψηφούσα.

Και τώρα πού θά κρατηθώ, πού θά σταθώ, πού θάμπω,  
πού απόμεινα ξερό δεντρί σέ χιονισμένο κάμπο ;

## おまえは良い子だった

おまえは良い子だったし優しかった、そして、すべての魅力があった、  
物腰のすべての優しさ、庭のすべてのスマイル。 (VII-1)

優しい鹿のように脚を軽やかに踏み出し、(\*1)  
わが家の敷居をまたぎ黄金のように光り輝いていた。 (VII-2)

どのようにしてあばら家にひとりで帰るのだろうか？  
夜のとばりが下りてしまい明け方までわたしの道を隠している。 (VII-3)

おお、なにも聞こえなかったし、わたしの唇が焼けることは  
起こり得ないし、わたしが泉の前にいることもないかもしれない。(\*2)  
(VII-4)

おまえの若さからわたしの若さを取り戻し、なおかすかにほほ笑んでいた、  
老いは怖くなかったし、死をも恐れなかった。 (II-5)

そして、わたしは今どこで堪えて、どこに立って、どこで身をくらますのか、  
わたしは干乾びた樹木を雪に覆われた平原のどこに残してしまったのか？(\*3)  
(II-6)

\*1 Newton 訳は「Your light-stepping foot, like a tender deer,」と訳した。

\*2 Newton 訳は「Oh, an unheard of thing! It's impossible / for my lips to be burning while I'm in front of the spring,」であるが、νάμαι は να + είμαι = νάμαι であり δέ μπορεί につながると解釈した。

\*3 Newton 訳は「And now what place will hold me, where will I stand, what place will take me in ? / I have remained a withered tree in a snow-covered field.」であるが、πού θάμπω が意識された。最後の行の πού は訳されていない。

[ハサポセルビコス 2/4、3/4 拍子]

Εί - σουν κα -

λός κ'εί - σουν γλυ - κός,

## 6. ΣΤΟ ΠΑΡΑΘΥΡΙ ΣΤΕΚΟΣΟΥΝ

Στό παραθύρι στέκοσουν κ' οι δυνατές σου οι πλάτες  
φράζαν ακέρια τήν μπασιά, τή θάλασσα, τίς τράτες.

Κι ο ίσκιος σου σάν αρχάγγελος πλημμύριζε τό σπίτι  
καί κεί στ' αυτί σου σπίζε η γαζία τού αποσπερίτη.

Κ' είταν τό παραθύρι μας η θύρα όλου τού κόσμου  
κ' έβγαζε στόν παράδεισο πού τ' άστρα ανθίζαν, φώς μου.

Κι ως στέκοσουν καί κοιτάζες τό λιόγερμα ν' ανάβει,  
σάν τιμονιέρης φάνταζες κ' η κάμαρα καράβι.

Καί μέσ στό χλιό καί γαλανό τό απόβραδο -έγια-λέσα-  
μέ αρμένιζες στή σιγαλιά τού γαλαξία μέσα.

Καί τό καράβι βούλιαξε κι έσπασε τό τιμόνι  
καί στου πελάγου τό βυθό πλανιέμαι τώρα μόνη.

### 窓辺に立って

窓辺におまえのたくましい背中が立って  
完全にふさいでいた、入り口を、海を、トロール船を。 (XV-1)

そして、天使長のようなおまえの影が家中に氾濫して  
おまえの耳に横たわり宵の明星のアカシアの花がきらめいていた。 (\*1)  
(XV-2)

わたしたちの窓は全世界への扉だったし  
わたしの光り、星の瞬く天国へ連れ出してくれた。 (XV-3)

おまえが立って夕日が赤らむのを見つめていたとき、  
おまえは操舵手のように目立ち、部屋は船のように。 (\*2) (XV-4)



Μυριόρριζο, μυριόφυλλο κ' ευωδιαστό μου δάσο,  
πώς νά πιστέψω η άμοιρη πώς πόραε νά σέ χάσω;

Γιέ μου, όλα κάνανε φτερά κι όλα μ' αφήκαν πίσω,  
δέν έχω μάτι για να ιδώ, στόμα για νά μιλήσω.

Μέ τά χεράκια σου τά δυό, τά χιλιοχαϊδεμένα,  
όλη τή γής αγκάλιαζα κι όλ' είτανε για μένα.

### 不死の水をもっていたら

不死の水をもっていたら、新しい魂をもっていたら、  
ほんの一瞬だけおまえが目覚めるように、おまえに与えたい、(\*1) (XIX-1)

見てほしい、話してほしい、おまえの夢を正直にうれしく思って、  
おまえの近くで、おまえの傍らで生き生きと叶えさせてほしい。 (XIX-2)

通りと市場でどよめきが起こった、バルコニーと路地で、  
そして、女の子たちがおまえの髪に差すために花を摘んでくれた。 (XIX-3)

無数の根、数え切れない葉、よい香りのするわたしの森、  
おまえを亡くしてしまう不運をどうして信じられようか?(\*2) (III-8)

息子よ、すべてに翼が生えて、すべてがわたしを置いていった、  
わたしは見るための目をもたないし、話すための口をもたない。 (XII-4)

何千回も優しく撫でた、おまえの両腕で、この世のすべてを  
わたしは抱きしめたし、すべてがわたしのためにあった。(\*3) (II-4)

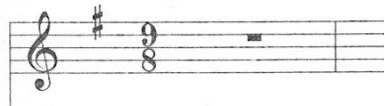
---

\*1 Newton 訳は「If only I had the immortal water, if only I had a new soul  
to give you, so that you could awaken for just one moment,」と訳した。  
Νάχα は  $\nu\alpha + \epsilon\acute{\iota}\chi\alpha = \nu\acute{\alpha}\chi\alpha$  であるが、「If only I had...」の only の

ニュアンスを出すのは意識と考える。

- \*2 Newton 訳は「My fragrant forest with a thousand roots and a thousand leaves, how could luckless I believe I could lose you ?」と訳した。
- \*3 Newton 訳は「With your two dear arms, which I caressed thousands of times, I'd embrace all the earth, and everything was mine.」と訳した。

[ゼイベキコス 9/8 拍子]



## 8. ΓΛΥΚΕ ΜΟΥ ΕΣΥ ΔΕ ΧΑΘΗΚΕΣ

Γιέ μου, ποιά Μοίρα στόγραφε καί ποιά μού τόχε γράψει  
τέτοιον καημό, τέτοια φωτιά στά στήθεια μου ν' ανάψει;

Γλυκέ μου, εσύ δέ χάθηκες, μέσα στίς φλέβες μου είσαι.  
Γιέ μου, στίς φλέβες ολουνών, έμπα βαθιά καί ζήσε.

### わたしの可愛い子、おまえは死んではいない

息子よ、どんな運命が巡ってきてわたしの定めとなってしまったのか  
このような悲しみに、わたしの胸の内のこのような炎に点火したのか? (\*1)  
(IV-1)

わたしの可愛い子、おまえは死んではいない、わたしの血管のなかにいる。

息子よ、すべての人々の血管に、深く入ってきて、そして、生きなさい。

(XX-1)



詩（いずれもテオドラキスが作曲）に関して、今後研究してゆく予定である。

最後に、ハジダキスがなぜテオドラキス作曲の「エピタフィオス」をレコード化したかという疑問については、ハジダキスの見解を記した文献があるか不明だが、当時ハジダキス自身も取り組んだギリシア伝統音楽復興のために純粋に音楽的に取り上げる価値があると判断したから、というのが筆者の見立てである。

### 参考文献

- 1) ΜΙΚΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ, *Μελοποιημένη Ποίηση, ΤΟΜΟΣ Α, ΤΡΑΓΟΥΔΙΑ*. ύψιλον/ βιβλία 1997.
- 2) *THEODORAKIS, Myth & Politics in Modern Greek Music*. GAIL HOLST Adolf M. Hakkert – Publisher – Amsterdam 1980.
- 3) *I HAD THREE LIVES Selected Poems of Mikis Theodorakis*. Translated by GAIL HOLST- WARHAFT, Livani Publishing Organization, Athens 2004.
- 4) GEORGE GIANNARIS, *Mikis Theodorakis Music and Social Change*. George Allen & Unwin Ltd. London 1973.
- 5) エピタフィオス原詩：  
ΓΙΑΝΝΗΣ ΡΙΤΣΟΣ *ΕΠΙΤΑΦΙΟΣ ΤΕΣΣΕΡΑΚΟΣΤΗ ΤΡΙΤΗ ΕΚΔΟΣΗ*.  
ΕΚΔΟΣΕΙΣ ΚΕΔΡΟΣ 1997.
- 6) *Journal of the Hellenic Diaspora 1986 spring-summer*  
Pella Publishing Company, Inc. New York 1986
- 7) *Yannis Ritsos: Selected Poems*. Translated by Nikos Stangos with an Introduction by Peter Bien, EFSTATHIADIS GROUP, Athens 1983.
- 8) Nick Papandreou, *Mikis and Manos: A Tale of Two Composers*. Kindle Amazon 2012.
- 9) *Greek Dances by Ted Petrides*. Lycabettus Press, Athens 1980.
- 10) 楽譜：*Mikis Theodorakis, Επιτάφιος Cycle of Songs*.  
ROMANOS PRODUCTIONS LTD. Limassol, Cyprus 1999.
- 11) レコード・CD のラベル解説からの引用：  
レコード：  
ΜΙΚΗ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗ Γιάννη Ρίτσου ΕΠΙΤΑΦΙΟΣ Γιώργου Σεφέρη ΕΠΙΦΑΝΙΑ  
ΜΑΝΩΛΗΣ ΧΙΩΤΗΣ ΚΑΙ ΛΑΪΚΗ ΟΡΧΗΣΤΡΑ  
ΤΡΑΓΟΥΔΟΥΝ: ΓΡΗΓΟΡΗΣ ΜΠΙΘΙΚΩΤΣΗΣ – ΚΑΙΤΗ ΘΥΜΗ  
ΔΙΕΥΘΥΝΣΙΣ: ΜΙΚΗ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ

EMI 14C 062-70221 1974

注) レコードジャケット裏面の解説に、曲目毎のダンス名が記載されている。

CD1 :

ΜΙΚΗ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗ “ΕΠΙΤΑΦΙΟΣ-ΕΠΙΦΑΝΙΑ“

ΕΠΙΤΑΦΙΟΣ: Γιάννη Ρίτσου ΕΠΙΦΑΝΙΑ: Γιώργου Σεφέρη

Τραγουδούν: Γρηγόρης Μπιθικώτσης – Καίτη Θύμη

ΔΙΕΥΘΥΝΣΗ ΟΡΧΗΣΤΡΑΣ: ΜΙΚΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ

MINOS EMI FABEL SOUND/GREECE 14C 045 702212

注) 上記レコードの CD 版。

CD2 :

Η ΝΑΝΑ ΜΟΥΣΧΟΥΡΗ στον ΕΠΙΤΑΦΙΟ του ΜΙΚΗ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗ

από το ποίημα του ΓΙΑΝΝΗ ΡΙΤΣΟΥ

Ενορχήστρωση και διεύθυνση ορχήστρας: ΜΑΝΟΣ ΧΑΤΖΙΔΑΚΙΣ

(P) 1964 PolyGram Records S.A. (Greece).

(C) 1994 PolyGram Records S.A. (Greece).

- 12) *Μίκης Θεοδωράκης Κινηματογραφική αυτοβιογραφία Ντοκουμέντα της ζωής και του έργου του.* ΑΡΧΕΙΟ ΚΡΗΤΗΣ / ΓΙΩΡΓΟΣ & ΗΡΩ ΣΓΟΥΡΑΚΗ Αθήνα 2005.
- 13) *Μικς・テオドラキス, 西村徹・杉村昌昭訳『抵抗の日記』*  
河出書房新社, 1975.
- 14) 池澤夏樹「特集・今日の海外文学—オディッセアス・エリテイス詩選」  
文芸雑誌『海』1980年2月号, 中央公論社.
- 15) 茂木政敏「解説に代えて—現代ギリシア詩小史(1941年まで)」  
東千尋編訳『現代ギリシア詩集』土曜美術社出版, 2011.
- 16) 中井久夫訳『リッツォス詩選集』作品社, 2014.
- 17) C.M. ウッドハウス, 西村六郎訳『近代ギリシア史』みすず書房, 1997.
- 18) 辞書・文法書:  
Γ. Μπαμπινιώτης, *ΛΕΞΙΚΟ ΤΗΣ ΝΕΑΣ ΕΛΛΗΝΙΚΗΣ ΓΛΩΣΣΑΣ Β' Έκδοση.*  
Κέντρο Λεξικολογίας Ε.Π.Ε. 2002.  
D N Stavropoulos, *Oxford Greek-English Learner's Dictionary.*  
Oxford University Press 1988  
川原拓雄『現代ギリシア語辞典 [第三版]』リーベル出版, 2004.  
福田千津子『現代ギリシア語文法ハンドブック』白水社, 2009.